

これまでの議論の整理と 今後の視点について

平成30年11月2日
国土交通省 国土政策局

【論点1】 経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク(新幹線、高速道路、航空等)等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

- ①経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化
する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。
- ②リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、次の点にどのような
可能性があるのか。
 - ・新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法など
にどのような変化を生じさせる可能性があるのか。
 - ・大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対する
ニーズの増大等、暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があ
るのか。
 - ・海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。
- ③新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※上記について、ゲストスピーカーの意見を伺う。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が、2045年頃から
最大8年間前倒しと想定されている。

上記に加えて、

リニアによって生じる時空間的な人口の増大や、産業の集積、知の対流の活発化等による経済効果
について、可能な限り定量的な分析を行う。

検討会の論点

【論点2】 論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

- ①企業、大学や研究機関等の交流・対流を促進し、イノベーションの創出につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ②大都市部の高齢者の生きがいづくりなど、暮らしの質の向上に対するニーズに対応し、これを新たな価値創造やビジネスの拡大につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。（セカンドライフにおける新しい幸福を創出するにはどのようにすべきか。）
- ③地域の文化・伝統を引き出し、新たな価値創造につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ④海外の人と投資を引き付ける魅力ある地域づくりにつなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。また、海外への情報発信、ニーズの把握はどうするべきか。

【論点3】 論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

- ①三大都市圏の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。
- ②中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。特に、中間駅を中心とする地域のプロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。
- ③リニアの効果を全国に拡大するための方策は何か。特に、インフラの質の向上、進化の基本的方向はどうあるべきか。

**タイトル：人口減少社会にうちかつスーパー・メガリージョンの形成に向けて
～時間と場所からの開放による新たな価値創造～**

第1章 スーパー・メガリージョン構想について

- 第1節 スーパー・メガリージョン構想の議論の背景
- 第2節 リニア中央新幹線の概要
- 第3節 スーパー・メガリージョン構想検討会の趣旨

第2章 我が国が直面する状況の変化とリニア中央新幹線がもたらすインパクト

- 第1節 我が国が直面する状況の変化
- 第2節 リニア中央新幹線による劇的な時間短縮がもたらすインパクト
 - (1) フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション
 - (2) 「時間」と「場所」からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル
 - (3) 海外からの人や投資の積極的な呼び込み
 - (4) 災害リスクへの対応

**論点1の
とりまとめ**

第3章 正のスパイラルの創出により世界を先導するスーパー・メガリージョン

- 第1節 スーパー・メガリージョンの形成により実現が望まれる将来の姿
- 第2節 三大都市圏の一体化による巨大経済圏の誕生と我が国の経済の飛躍
- 第3節 クリエイティビティと地域の魅力の融合による新たな拠点の誕生
- 第4節 広域的に波及するスーパー・メガリージョンの効果

**論点2、論点3
に繋がる意見
の整理**

第4章 終わりに

過去のゲストスピーカーの発表要旨【論点2,3に関するもの】

【(株)日立製作所 中西 宏明 取締役会長兼代表執行役】… H29.11.20

- ・世界の中核都市として東京・中部・関西圏が金融・先端研究・文化発信等の拠点として独自性・優位性のある「トリプルコア」へと進化する必要がある。
- ・また、3都市が1つのリージョンとしてバックアップ体制を構築していくという観点では、単に拠点を移すというだけでなく、いかにビジネスが連続してうまく進んでいくのかという発想が必要。



【多摩川精機(株) 萩本 範文 代表取締役副会長】… H29.11.20

- ・これからのものづくり戦略を描くにあたっては、自動車に偏りすぎる産業構造に換わる、次の時代を支える産業をつくることが重要。
- ・信州・飯田地域は、航空機産業に着目し、スーパー・メガリージョンの真ん中という立地から、2つのアルプスに挟まれた高原国際都市として、先端科学を構想し生み出すまち、科学者の集う科学者村、ハイテクノロジーと伝統文化が混じり合うまちといったイメージが実現されるのではないか。



【岡谷鋼機(株) 岡谷 篤一 取締役社長】… H30.2.1

- ・名古屋には東京と比べ、平均月収はあまり変わらないが、通勤時間が短く、住宅地価格も安い。鉄道網の高速化や高架化、高速道路のミッシングリンクの解消により、東京からの移住を促進できる可能性がある。
- ・リニア開業に伴う名古屋駅周辺開発や地域活性化のグランドデザインも描かれており、「住空間」、教育を含めた「知」の拠点としての魅力を高め、名古屋の特徴である「ものづくり」の集積地としての魅力を高めることが重要。



過去のゲストスピーカーの発表要旨【論点2,3に関するもの】

【(株)セブン&アイHD 井阪 隆一 代表取締役社長】 … H30.2.27

・リニア開業を契機として、大阪・名古屋が新たなゲートウェイとなり、特に関西以西の訪日外国人による観光需要増が期待される。その効果を、沿線以外の地域にいかを広げていくかが重要であり、海外からの旅行者を一つの呼び水として、様々な構想を検討することができるのではないかと。



【Spiber (株) 関山 和秀 取締役兼代表執行役】 … H30.3.15

・山形県鶴岡市は、慶応大の先端生命科学研究所の誘致を契機に発展が進む。社員の1割は外国人(約10カ国)だが、研究者に定住してもらえる環境が重要。かつては田んぼばかりだったが、教育環境や飲食・子育て環境、中長期の宿泊に利用可能な施設等、世界中から人材が集まってきても耐えうるインフラを整え、今では日本有数のイノベティブな都市として認知されるまでに成長した。



【大和ハウス工業(株) 芳井 敬一 代表取締役社長】 … H30.3.22

・これまでは土地の安い(買える)場所と通勤範囲で選ぶため、都心はマンション、郊外は一戸建てというモデルが普通だった。これからは自宅の中で勤務したり学校の教育を受けることも可能になり、「好きな場所」に「好きな形態」で住み替えるという形に変わるだろう。家や住む場所には「そこにしかないもの」(学校・趣味・コミュニティ・自然等)が重要。

